

2025

同友しずおか 8

「入ってよかった」「続けてよかった」「誘ってよかった」
「企業も地域もよくなった！」

VOL.561



私の逸品

杉村精工(株)

私たちは変わり続ける
お客様の期待に応える
ために



静岡県中小企業家同友会



中小企業家同友会とは

静岡同友会は1974年に71名の経営者が呼びかけあい、設立されました。約1,100名の経営者が、「経営体質の強化」「経営者の能力向上」「経営環境の改善」をめざし、活動しています。全国各地で開催される全国大会をはじめ、県全体で行う定時総会・全県経営フォーラム、また、経営課題別の専門委員会、県下11支部での活動、行政や関係諸団体との懇談、連携等、多岐に亘る活動をしています。

同友会3つの目的

1 よい会社をつくろう

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。

2 よい経営者になろう

同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

3 よい経営環境をつくろう

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

- 社長はいつも孤独
- 経営の成功体験しか聞けない
- 目の前の仕事に追われる毎日
- 指示待ち社員ばかり
- 経営の悩みを相談する仲間ができた
- 失敗談から勇気とヒントをもらえた
- 将来の会社のビジョンができた
- 自発的な社員が増えた

その答え、
同友会にありました。

会 員 募 集 中

経営者同士だからこそ話せる
悩み、解決へのヒント、将来への展望。
体験してみませんか？

静岡県中小企業家同友会 TEL/054-253-6130
〒420-0857 静岡市東区藤原町 静岡工業ビル4F FAX/054-255-7820 Email/doyu@shizuoka.jp

◆静岡同友会 2025年ビジョン 「企業づくり・地域づくり・同友会づくり」

◆ 企業づくり ◆

私たちは、関わる全ての人が「成長」と「幸せ」を実感できる企業をつくります

◆ 地域づくり ◆

私たちは、中小企業と地域が手を取りあい、人々の幸せが見える地域をつくります

◆ 同友会づくり ◆

私たちは、企業と地域を守る経営者の^{きょうじ}矜持と努力を結集し、
学び・気づき・ワクワク溢れる活動を通して県下1500名会員を実現します

新会員のご紹介 (敬称略) 会員数 1086名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
はた 畑 道 櫻	富士山花火実行委員会(株) 花火大会の新規創設・企画運営実施、及び、花火大会を始めとした各種既存イベント企画運営コンサルテーション、関連コンテンツ（映像番組、音楽、フードフェス等）の実施	御殿場	山田 安史
つつみ 堤 大 樹	(株)ズームアップ 自動車部品などの機械加工部品の検査請負、製造派遣、ハウスクリーニング等	三 島	速水 伸吾
なか しま 中 島 大 元	森洋運輸(株) 液体工業薬品、特殊高圧ガス、粉体他のタンクローリー輸送事業	沼 津	杉山 孝史 (愛知同友会)
はやし 林 克 樹	林総合法律事務所 弁護士業務	静 岡	田邊光史郎
すず き 鈴木 岳 幸	合同会社リーフ 資産管理	志 太	寺田亜記子
いけ だ 池 田 真 吾	(株)なごやか 着物のインターネットレンタル	浜 松	秋山 英正
かた おか 片 岡 和 佳	合同会社サンプー ドローン（農業、撮影、点検など）、インドネシア実習生送り出し機関	浜 松	木下 武明

※新会員の写真は e.doyu 「ユーザ名簿」に掲載します。e.doyu からのご確認をお願い致します。



私たちは変わり続ける お客様の期待に応えるために

杉村精工(株) (志太支部)

総務部 経営企画課 杉村 岳氏



取材を終えて（後列右から岳氏と征郎氏）

町工場の4代目として異業種 からの入社

杉村精工(株)は、機械加工・設計・組立を一貫して行うものづくり企業です。2年前、4代目の跡継ぎとして、杉村岳氏が東京での職を辞して戻ってきました。

「自分の家は工場を運営していて、機械を作っている」程度の認識しかなかった岳氏、「入社して感じたことは、色々な制度が整っている会社だなあ。ということでした」と語ります。それもそのはず、同社は静岡同友会設立メンバーのひとり、杉村征郎氏が2代目、そして岳氏の父、学氏が3代目として理念に基づく経営を継承してきた会社です。「奉仕を先に、利を後に」を経営理念に掲げ、お客様に尽くし、信頼に応えることを第一に、社員一人ひとりが切磋琢磨していたのです。

創業76年、およそ50年ぶりの ユニフォーム変更

しかし、一方「ユニフォームをイメージチェンジしたい」と感じた岳氏は、現場社員の声を聞きながら、社長へ提案します。「町工場らしくないユニフォームに変更して、会社がアップグレードし続けていることを内外

に示しましょう。」

その提案は採択されます。「変更

に際して、デザイン性だけに偏ることなく、動きやすさや快適性、耐久性など

現場での実用性を何より重視しました。」

と語る岳氏。肌触りなども実際に検証しながら試着を繰り返し、ようやくコーポレートカラーの青とオレンジを使ったオリジナルデザインのユニフォームが出来上がりました。これが「私の逸品」です。

ユニフォームが変わったことで 情報発信にも変化が

「製造業には、3Kのイメージがあります。それを否定するのではなく、ものづくりの魅力や価値を発信していく。そのきっかけとしてユニフォームの変更をとらえています。」と語る岳氏。社内の評判は「動きやすいし、涼しい」と上々です。さらにお取引先からも「カッコいい制服だね」と声をかけていただくようになったそうです。



上段：変更前 下段：変更後の制服



作業性も向上

「ユニフォーム変更をXで発信したところ、日刊工業新聞から取材を受け、新聞の記事となりました。」嬉しそうに語る岳氏からは、ものづくりにたずさわる社員へのリスペクトを強く感じました。取材の後半、杉村征郎氏も加わっていただきました。志太支部が創立40周年を迎える

にあたり、同友会の理念が今も受け継がれていること、時の政治とかかわりにより中小企業振興基本条例が誕生した経緯などをお聞きすることができました。取材を終え、町工場が日々アップグレードしながら、社員とその家族の人生を支え続けていることを再確認させていただきました。

取材・原稿：村松繁氏

取材：山田尚子氏 (アイマーク(株)・志太支部)

宮本浩氏 (株)サンロフト・志太支部

寺坂鷹氏 (大栄工業(株)・志太支部)

鈴木肇氏 (株)育喜家ハイホームス・志太支部

(有)鈴木清掃・志太支部

撮影：赤堀昌也氏 (akgm&co.・志太支部)

杉村精工(株)

〒425-0068 焼津市中新田1600番地

TEL：054-624-4700

URL：http://www.sugimura-seiko.jp/

創業 1949年

社員数 30名

入会年月 2024年6月

事業内容 機械部品製作

機械組立の受託生産

自社製品の開発・製造・販売

会員訪問記

地域とともに歩む老舗文房具店、次の一歩へ

(株)芙蓉堂
代表取締役 宮下 武氏（富士宮支部）



カフェ「Hanamori」にて

歴史ある富士宮の商店街の一角に、懐かしさを感じる老舗文房具店「芙蓉堂」。画材や専門文具に強みを持ち、まちなかの本店のほか郊外の国道沿いにも出店。長年にわたり教育・アート・ビジネス

など、地域の文化的暮らしや様々な企業・オフィスサポートを継続しています。
現社長の宮下武氏は1973年生まれ、3代目。地元の学校を経て大学卒業後、都内の事務機問

屋で5年間修行を積み、27歳のときに帰省して実家の同社に入社しました。

激変する環境

しかし、2000年前後からのITの急速な発展に伴って、特に通販普及の影響は大きく売上にも明確に影響がはじめてきました。年々加速する少子高齢化も追い打ちをかけてきます。危機感を抱いた宮下さんは、実店舗に加えて、自社でも通販に着手。楽天・Amazon・Yahoo!など様々なネットのモールに出店し、現在は楽天に絞って効率的な運用に取り組んでいます。それでも、通販の売上は全体の約1割にとどまり、店舗の存在意義を改めて問い直す必要に迫られていました。

同友会入会と事業再構築への取り組み

同友会には、地元商店街の仲間マツヤデンキ商会の稲原氏とかわむら呉服店の河村氏の勧めもあって入会しました。2025年度はグループ長もつとめ、「地域にな



「芙蓉堂」2F文具販売スペース



交差点側の窓からは富士山も望める

くてはならない会社とは何か」を真剣に学ぶ日々を送っています。
そんな中、数年前に開催された全県フォーラムで、同じ富士宮支部に所属する宮崎ふとん店の宮崎氏の取り組み、事業再構築の補助金の活用事例を聞いた事をきっかけに「同じ補助金を活用して何かできないか」と模索を始めました。

老舗ならではの交流スペースづくりへ

申請、採択、準備には数年を要しましたが、無事に事業再構築補助金も採択され、ついに念願がなつて、2024年5月、本店の一角にカフェスペース「Hanamori（はなもり）」をオープン、地域の人々がふらっと立ち寄れる、憩いの場づくりの挑戦を始めました。
1Fは各種ドリンクの他ランチや軽食をとれるカフェスペースを、2Fには従来の文房具の販売スペースとしました。交差点側の窓からは富士山も正面に見え、知る



SNS発信にも力を入れる

人ぞ知る人気の席になっているそうです。
よりよく、そしてつながる場所へ

「文房具を売るだけではなく、人がつながる場にしたい」と語る宮下さん。まだカフェをオープンして一年少々、SNS発信やワークショップ、カフェメニューの改善など、前向きな取り組みを日々継続しています。

厳しい逆風の時代であっても、どこかに必ずニーズはある。だからこそ、変化を恐れず、一歩踏み出し続けるその姿勢が印象的な訪問となりました。

取材・原稿：田邊 元裕氏
(株)カボス・富士宮支部

(株)芙蓉堂

〒418-0072 富士宮市矢立町955

TEL：0544-27-3336

URL：http://www.fuyodo.co.jp

設立 1962年

社員数 10名

入会年月 2014年9月

事業内容 文具・事務用品・画材・額縁・印鑑・ゴム印・各種印刷

会員訪問記

社員と共に成長し続ける
企業づくりをめざして

代表 佐々木工業(株)
佐々木 修宏氏 (榛南支部)



ものづくりへのこだわり

御前崎市で外構工事業を営む佐々木工業(株)に訪問しました。同社は外構工事を中心として、エクステリア工事、土木工事、造園工事まで幅広く手掛けており、その中でも、門扉・フェンス・アプローチ・駐車場など建物の外回りを整える工事を強みとしています。

人との繋がりが創業のきっかけに

代表の佐々木氏は高校卒業後、地元の自動車修理工場に就職。自動車整備士として働くも自身の将来への不安を感じ、思い切つて退職を決意。日本一周47都道府県全てを回る自分探しの旅に出ました。各地で声をかけてもらい、人とのつながりを体感。旅先で出会った



佐々木氏(中央)と取材陣

人とは今でも交流があるとのこと。旅中の経験から、「物づくりの職人として生きていこう」と決意した佐々木氏は、旅から戻ると知人の紹介で土木工事業へ入社。最初は家を建てる大工の仕事をイメージしていたそうですが、結果的に外構や造園に関わる現在の道へと進むこととなりました。2017年に健康上の理由で退職し転職活動を開始したものの、就職先が見つからず、今までの経験と意思を胸に佐々木工業を創業しました。

同友会での学びが「意識改革」に繋がる

現在は、社員2名とともに業務をこなす佐々木氏。経営理念や会社の存在意義・強みを再認識し、文化する必要性を感じ、地元の会員からのアドバイスもあり2024年に同友会に入会。年齢や業種、規模の違う経営者の考え方や取り組みに触れることで、自身の価値観や思考に変化が生まれ、「意識改革」につながったといいます。今後の目標は、会社としての「盤石な体制づくり」。現在は少数精鋭で現場を回していますが、今後は社員の増員を図り、業務の幅をさらに広げていくことを視野に入れています。単に人を増やすのではなく、社員一人ひとりの丁寧なコミュニケーションを重ね、職場内の信頼関係をより一層深め

ていくことが肝要だと考えています。

地域に必要とされ信頼される会社をめざして

社員とともに内装を手がけた新しい事務所へと拠点を移し、法人化という一つの節目を迎えた佐々木氏。今後は「地域に必要とされ、信頼される会社」として、社員と共に成長し続けられる企業づくりを目指していきます。信念と実行力をもって、佐々木工業(株)の新たな歩みは、確かな一歩を踏み出しています。

佐々木工業(株)

〒437-1622 御前崎市白羽2235-8

TEL : 0548-23-9955

設立 2018年12月

社員数 2名

入会年月 2024年10月

事業内容 外構工事、造園工事、エクステリア工事、土木工事

取材・記事：中村 秀和氏
(中村醤油(株)・榛南支部)
取材：河内 崇文氏
(株)スマートブレイン・榛南支部)
松下 秀樹氏
(株)建築工房相良・榛南支部)

中同協第57回定時総会in神奈川

真の人間尊重の社会をつくり新しい歴史を創造しよう

7月3日(木)～4日(金) パシフィコ横浜 会議センター

7月3日(木)～4日(金)に中小企業家同友会全国協議会(以下、中同協)第57回定時総会が神奈川県横浜市で開催されました。テーマは「真の人間尊重の社会をつくり新しい歴史を創造しよう」。当日は47同友会と中同協から総勢1141名が参加、静岡同友会からは53名が参加し、分科会や記念講演を通して学びを深めました。



閉会挨拶をする井上代表理事



記念企画で報告する鉦柄中同協顧問

1日目の全体会では、田中勉・神奈川同友会代表理事と広浜泰久・中同協会長よりあいさつがあり、続いて中山英敬・中同協幹事長より議案提案を行いました。その後、14の分科会に分かれ、議案を検討するとともに学びを深めました。第10分科会では、環境経営のテーマで静岡同友会から箕

威頼氏(㈱アサギリ・代表理事/富士宮支部)が報告者として、穂坂勝彦氏(富士宮清掃/富士宮支部)が座長として登壇しました。(分科会の様子は次ページで紹介します)

2日目は、黒岩祐治・神奈川県知事、山中竹春・横浜市長より来賓あいさつがあった後、労使見解50年記念企画として「経営者の責任―学んで実践しつづけてこそ」をテーマに鉦柄修・中同協顧問(㈱エステム名誉会長)が実践報告しました。その後、大グループ討論を行い「同友会理念や労使



全国から総勢1141名が参加

見解の理念をどう広げていくか」を深めました。討論後は議事を再開、総会議案や予算・決算が一括採択されました。その後、新役員を代表して広浜会長より「同友会の新たなステージに向けて労使見解をあらためて学び直し、経営者としての喜びをもつて実践していきましょう」とあいさつ。最後に次回開催地である静岡同友会を代表して井上代表理事があいさつし、閉会しました。

〈労使見解50年記念企画〉

「経営者の責任―学んで実践しつづけてこそ」
(㈱エステム名誉会長 中小企業家同友会全国協議会 顧問 鉦柄修氏)

1941年愛知県生まれ。1971年に大学の同期生が設立した水処理施設メンテナンス企業「総合施設サービス(株)」(1990年「㈱エステム」に社名変更)に入社し、1991年に代表取締役社長に就任。愛知同友会に1980年に入会、同友会の発展に尽力し2007年から10年にわたり中同協会長を務めた。現在は㈱エステム名誉会長、中同協顧問を務める。

私が同友会に入会したのは、労働組合が盛んになる中、経営者としてどうすればよ

いか学ぶためでした。ちょうど愛知同友会が1000名に達する頃でした。同友会の役を受けて感じることは、役員になることが一番の成長だということです。故・赤石義博氏(元中同協顧問)に出会い、追っかけをしようと決め、中同協の行事にも参加していくと、全国のレベルの高さに驚きました。故・田山謙堂氏(元中同協顧問)には「労使見解を知らない理事はニセモノだ」と言われ、そこから「労使見解」をポロポロになるまで読み込みました。

「労使見解」の4つのポイントは「経営者の経営姿勢の確立」「経営指針の成文化とその全社の実践」「社員をもっと信頼できるパートナーとする」「外部経営環境の改善にも労使が力を合わせていく」ことです。また、経営指針・共同求人・社員教育を三位一体で取り組むことが大切です。同友会型企業づくりを自社に翻訳し、10年ビジョンをつくりました。また、目標を明確にし、戦略・方針を立てました。

社員教育の面では「学習型企业」をめざし業務時間内に学習会を実施、多くの社員が国家資格を取得しました。社員には「翼を鍛えろ」と伝えており、自社で資格を取得した後、他企業に転職していく社員もいます。これは社員がつかないでくれた仕事もあります。これは社会貢献の一つだと捉えています。社員を良きパートナーとするために社員とのコミュニケーションを深めること、社員が手を挙げられる会社づくりをしています。会社の名前を変えたときも社員とグループ討論をして決めました。社長も10年で交代すると決めており、社員の中から選出。更なる会社の成長に繋がっています。

中同協第57回全国定時総会 第10分科会

NIMBYからPIMBYへ 環境課題解決で地域との共存をめざす

報告者…(株)アサギリ

代表取締役 簗 威頼氏

(代表理事・富士宮支部)

NIMBYとは

NIMBY (Not In My Backyard) は、その施設が必要なことは認めるが、自分の近くに設置され、暮らしに影響を及ぼすことに反対する住民のことやその態度のことを言い表す言葉です。我々のような産業廃棄物処理施設や遊戯場、火葬場などが新し



報告する簗氏

くできると住民から反対運動が起ることがあるように、NIMBYは「自分の権利じゃない私的領域を侵されることに対する拒否反応」と言えるでしょう。弊社も様々なNIMBYと向き合って今があります。

自分自身と自社を取り巻く環境の変化

弊社は酪農業として創業し、現在は産業廃棄物処理業として、汚泥と動物の糞尿を主に取り扱っています。本社工場は静岡県東部の富士宮市にあり、山梨県にも工場があります。弊社の廃棄物処理能力は3万トンで、静岡県内の約10%の下水汚泥を処理しています。敷地の大きさは本社工場で東京ドームと同じ5ヘクタール、全体で18ヘクタールあります。私が入社した平成10年の売上が2800万円、同友会に入会した平成15年は1億円超、今期は5億9000万円で着地できる見込みです。

弊社は肥料になる有機性の廃棄物のみを扱います。有機性の廃棄物をコンポスト化、つまり微生物の力で発酵・分解させることで堆肥を製造し、農家などに販売する循環型の事業を行っています。顧客は大手の食品工場が多く、ホームページに取引先を全公開しています。

入社した平成10年当時、売上高が2800万しかないのに、繰越欠損金6800万、

なおかつ銀行借り入れゼロと、なぜ会社が存続しているか分からない状況でした。当時、社員はおらず兄と2人だけでした。兄が事故で入院した際に社員を雇用しましたが、最初は社員と話し合いが全くできず、若い社員に「僕は簗家の奴隷じゃない」と言われたこともありました。他の会社を見ていると羨ましく思い、なぜ自社では出来ないのだと眠れない日々が続きました。同友会との出会いは、中同協の鋤柄修顧問が当時幹事長だった時に、地元のコッパレ会での講演を聞いたことがきっかけでした。「みなさん！変わりましたか？」「実践しなきゃ意味がない」という言葉に感銘を受け、同友会の学びを実践し、同友会運動にまい進していきましました。どんな困難があっても前に進むという思いを「たゆたえども沈まず」という経営理念に込めました。

ピンチをチャンスに変える

そんな中、会社は次々とピンチが訪れます。平成23年に住民から悪臭の苦情が出ました。匂いは法的にはクリアしていたのですが、説明会を開くなどしっかりと向き合うことで住民の理解を得ることができました。続いて平成26年2月、大雪で工場建屋が倒壊。同友会の全研広島で分科会報告をする2時間前に倒壊した電話が入りました。幸い人的被害はなかったものの、国道から会社までの900メートルの道が雪に覆われ、会社に戻り重機に乗るまでも大変な苦労でした。社員に頼み、自社の周りだけでなく周辺の商業施設や住宅も除雪しました。社員からは「地域の方からたくさん感謝されて、やってよかった」と報告があ

り、それだけではなく「他の場所も困っている人があるから除雪したい」と言ってくれたことが本当に嬉しかったです。

大雪の対応が完了し会社が復旧した翌年、立地の問題が発生します。事業を酪農業から産廃業に変えたものの、土地の用途変更をしていなかったため、建物の用途外使用になってしまっていました。解決するためには開発行為をするか、ゼロからやり直すしかないと言われました。開発行為のためには、借入がある中で当時の売上の倍以上の設備投資をしなければなりません。そこで行政と密に連携し、「どうしたらできるか」と共に考え検討した結果、地元の畜糞を全体の50%受入れることで農業用施設としての登録が認められることになりました。富士宮市中小企業振興基本条例があったからこそ、行政と共に解決の糸口を見出せたのではないかと思います。そして、5ヘクタールの開発行為に取り掛かりました。香川同友会の徳武産業(株)の十河孝男会長から学んだように、「ここまでやるの?」と思われるくらい、人を感動させる会社づくりをして、価格決定権を持つことを意識してきました。

あるお客様には「環境をきれいにしているから」と評価いただき、これまでの倍以上の金額で仕事を受けて頂けることになりました。経営理念に基づいた経営をしていること、どんな原料を受け入れどこに売っているか、情報を公開し、透明性があることがお客様の評価と信頼に繋がっていると感じます。

次頁に続く

地域と連携し富士宮モデルを構築

富士山が世界遺産になったばかりの頃、糞尿による地下水汚染の問題をなんとかするようICOMOS（国際記念物遺跡会議）から言われました。糞尿の販売先がないことが問題だったため、富士宮市と静岡県県の当時の酪農組合と連携しながら、酪農家から糞尿をすべて買い取り、肥料にして農家やホームセンターに販売するという富士宮モデルを構築しました。生の糞尿をまくよりも、弊社で製造した肥料をまくことで牧草の収量も約25%上昇し酪農家にとっても餌代が浮くメリットがあります。また、臭いも抑えられるため、周辺の住環境も改善しました。また悪臭がないことで、コロナ禍に絶好のキャンプ地として注目され、最初から狙っていたわけではありませんが、



富士山観光にも結果として繋がりました。 「地域循環共生圏（ローカルSDGs）」の取り組み

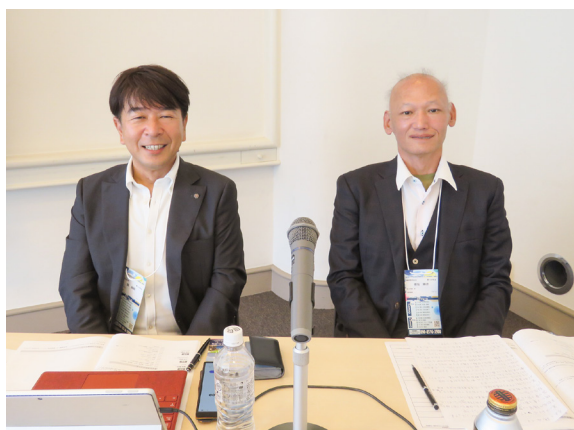
外的環境の変化も弊社の取り組みを後押ししてくれました。環境省が打ち出している取り組みに「地域循環共生圏（ローカルSDGs）」があります。自立した地域と自立した地域をネットワークで結び、人・モノ・金を循環させ、地域の個性を活かして地域同士が支え合うネットワークを形成する「自立・分散型社会」を示す考えです。「自社だけが生き残ればよい」ではなく、地域全体が生き残るために、自社で何ができるかを考えることが重要です。

富士宮市でも令和元年に富士宮市地域循環共生圏推進協議会ができた時に、私が1グループの座長を担当し「おいしいでつながる地産地消」をスローガンに循環の構想をつくりました。また、国の施策に「みどりの食料システム戦略」というものがあります。未来を見据えた持続可能な食料システムを構築するためのもので、これをきっかけに今まで縦割りで行政が180度変化し、例えば農業の下水汚泥に関しては農林水産省と国土交通省と環境省が横で繋がるようになりました。ポイントは「一社だけでなく「連携」です。それこそ我々中小企業が得意なことであり、強みだと思います。

バイオ炭を活用したカーボンマイナス・エコシステム

バイオ炭の農地への利活用も進めています。バイオ炭とは木材やもみ殻などの有機物を酸素が少ない状態で熱分解して作られ

る炭のことです。そうすることで通常の燃焼よりも二酸化炭素の排出を抑えられるため環境保護につながります。弊社では、他企業・他地域と広域連携し、山梨県の(株)南部町バイオマスエナジーでバイオマス発電をした際の副産物として残ったバイオ炭を受け入れています。そのバイオ炭を使って堆肥・ペレットを製造し農家に販売しています。農家にとっても、環境にやさしい野菜づくりといったブランディングにつながっています。求めたのは「関わった誰もが無理をしない」仕組みにすることです。弊社にとっても、地域課題を地域資源に変え地域内で循環させるという絵を描くことは簡単ですが、一番の課題は商品売り切ることです。リサイクル会社なので全量を販売できないと持続できません。だからこそ、農家さんに買ってもらえる商品を作るため、バックキャストで考えています。



報告者の簗氏と座長の穂坂氏

「PIMBY」地域に必要とされる会社をめざして

最後に今回のテーマである「PIMBY」についてお伝えします。これは「Please In My Back Yard」の略です。地域に必要とされる会社になるためにこの言葉をコロナ禍の時に社員に再提起し、「循環型社会の構築を推進するのが、(株)アサガリの仕事だ」と社員に伝えてきました。NIMBYが私的領域を侵されることへの拒否反応だからこそ、地域との関係性を構築するのが一番大事であり、それを続けることで地域に必要とされる企業になっていけるのだと思います。

〈座長まとめ〉

穂坂 勝彦氏

富士宮清掃(株) 代表取締役(富士宮支部)

簗氏は幾多の困難にぶつかりながらも、同友会の学びを実践し、自社や地域社会の未来を描いてきました。自社だけでは解決できない課題に対しては、行政や地域、他企業との連携を図ってきました。私たちも本分科会の学びを各地域や自社で実践し、中小企業の存在価値を上げ、地域になくてはならない企業を目指していきます。中小企業が存在するためには地域が持続可能でなければならず、地域が持続可能であるためには我々中小企業の役割が非常に重要です。この相互依存関係を築くことが、これからの地域、ひいては日本を支えていく力になるでしょう！

全国総会感想

第3分科会 報告者・橋本久美子氏
(株)吉村 代表取締役社長／中同協女性
部連絡会代表、東京同友会代表理事

粒つぶが生きる経営

座長からも紹介のあった通り、飾らずありのままの言葉で実体験を交えながらお話しただきとても心に残りました。目的、目標を常に意識し、ブレずに行動されている姿勢。そして時間をとっても大切にしていることが伝わってきました。自分の中の違和感や、思い、考えをすぐに伝える、でもそれはただの押し付けでなく、お互いの氣



分科会グループ討論の様子

づきを促すように語り掛ける。感情に左右されずに話すことにも難しさを感じていたが、何のために：が定まっていれば自然と会話はその本質の解決へ向かうのだと気づきました。また、一人ひとりの価値感の違いを「つぶつぶ」と表現され、その違いを大切にすることに努められているとのことだが、それにはまず、全員を知っていることと思います。簡単ではないそのような細かな観点をこぼさず大切にすることが、人を生かすことにつながっているのだと感じました。圧倒的な情報の開示も「会社は自分たちで変えていくもの」の意識づけの一端になっているのではないかと思います。生き生きとした社風が伝わってくる素晴らしい報告でした。

内山智美氏 (株)トミヤコーヒー・沼津支部

第6分科会 報告者・村川勝氏
神戸化成(株) 代表取締役社長／兵庫同
友会代表理事

赤字を1度も出さない、同友会型企業づくりと社長の哲学

村川氏は、約35年にわたり社員4人・売上1億円の会社を、一度も赤字を出すことなく、身の丈にに応じて新規事業やDX化に取り組み、社員66人、売上26億の会社に成長させた事業変革のさまざまな歩みを不離一体シートと共に報告くださいました。その中で、社長の哲学として、「働くことは、①世の中のためになること、②生きがいを感じることに、③人間が成長していくこと」と述べられ、太陽をやりがい、水をお

金、社員をお花に例え、そのお花が育つ「土壌づくり」の重要性を強調されました。土壌づくりには時間がかかるが、諦めずコツコツと続けること。同友会は特効薬ではなく漢方薬であり、学びを会社で落とし込むことで強靱な土壌づくりができる。土壌づくりは企業の自立・自走につながる。そして労働分配率経営や経営指針書のPDCAを社員と共に実践・確定させることで指針が浸透し、社員のモチベーション向上と働きやすい環境づくりにつながる。社員の精神的安全を大切に、社員の人生を豊かにするために社長自身とことん向き合うことの大切さを力強く語られました。「人を生かす経営」とは「人としてどう生きるのか」「経営者の覚悟とは何か」ということを改めて深く考え直す機会となりました。

宮地優子氏 (南塚本製作所・志太支部)

第8分科会
パネリスト・
児美川孝一郎氏
法政大学 キャリアデザイン学部教授
川中英章氏
(株)EVENTOS 代表取締役／中同協
共同求人委員長 広島同友会理事

経営者としての固定観念が変わるきっかけに

以前から参加してみたいと思っていた全国大会ですが今回やっと参加する事が出来ました。分科会選びでは自社が抱えている課題とリンクしている第8分科会を選びました。内容は「若者の就職をめぐる現状と中小企業の課題」です。パネルディスカッ

ションでのパネラーには大学の教授と広島同友会理事の方で進められました。大卒と高卒では遥かに高卒の生徒の方が就職への意識が高いなど経営者としての固定観念を打ちのめされました。またグループ討論ではテーマである「採用・教育の価値観をどのようにアップデートしていきますか？」について討論を行いました。さすがに全国大会に参加される方々との討論は熱く様々な問題点や意見が飛び交い、グループ発表での活気はとても刺激になりました。2026年の中同協定時総会が静岡での開催となりますが、このタイミングで全国大会に参加できたのが静岡開催の強い想いへと繋がりました。

久保佳通氏 (株)クボバン・榛南支部)

第11分科会 報告者・立石克昭氏
(株)タテishi広美社 会長／中同協副会
長 広島同友会代表理事

故郷に錦を飾る姿を見せる

立石克昭氏による「地域課題・社会課題に取り組む企業づくり」に参加しました。ユーモアと人間味あふれる立石氏の話に没頭しました。社員が働く姿を家族に見てもらう会社参観日の実施、地域のコミュニティスクールへの参加等、中小企業は「故郷に錦を飾る姿を見せる」のが大事であるという姿勢と行動力が印象に残りました。コミュニティスクールで特に重視しているのが学校側と企業側が「どのような子どもに育てようとしているのかを共有する」というものでした。我々が行っているキャリ

ア教育は子どもたちにとつては1日で終わってしまします。しかし学校側と考えが共有できれば、それ以降の学校教育を通じて「人を生かす経営」をベースとした「明るい将来」を子どもたちに伝えられると思います。立石氏の「社員に夢を見せるのが経営者」いう一貫した強い考えが「子ども達にも夢を見せよう」という行動にあらわれていることを知り、学びと経営は両輪であることを再認識しました。

小林 宣久氏（南シモノ工務店・静岡支部）

第13分科会 報告者…大貝 健二氏
北海学園大学 経済学部 教授

熱意を持ってやり続けること

神奈川で開催された第57回中同協定時総会に参加しました。1日目は第13分科会「中小企業憲章・条例運動の到達点と課題・新たな国づくり・地域づくりをめざして」と題して、中小企業憲章が小規模企業に対しての政策を厚くするにしたがつて、中小企業振興基本条例もまた小規模企業振興への施策が厚くなってやまいか、それで本当の地域振興と言えるのか、という大貝健二先生（北海学園大学）のご指摘には、深く共感しました。特に心に残ったのは、「熱意を持って続けることが大切だ」という言葉です。経営にも地域振興にも、絶対的な正解などありません。だからこそ、熱意を持って実行し、同じ思いのある人を育て、継続することが重要だと気づきを得ました。

2日目は「皆さん変わりましたか」で有



熱気あふれる2日目の大グループ討論

名な榎エステム名誉会長の鋤柄氏の労使見解に関するご講演でした。前評判通り、厳しくもユーモアに溢れたお話で、経営者であればやって当然ではないか、なぜやらないのか、というお手本のような経営姿勢には背筋を正される思いでした。

今回が全国大会初参加でしたが、同じように熱意を持って地域に向き合う仲間が全国にいることを知り、大きな励みとなりました。そして何より「言い訳せず、やりなさい」という全国の先輩経営者たちからの叱咤激励は、私にとって経営者としての覚悟を新たに作る大きな気づきと学びとなりました。

鈴木達仁氏（理仁薬品㈱・静岡支部）

中小企業家同友会全国協議会第58回定時総会in静岡 2026年7月9日(木)～10日(金) 開催決定!!

静岡同友会は2024年に50周年を迎えて、その際に先輩たちが築いてこられた歴史を振り返り、先輩経営者たちの生き様を感じ、次の50年に向けてスタートしたばかりです。

変化が激しく、益々、先の見えない外部環境が予想される中で、変えなければならないものと変えてはならないものは何なのか、経営者自身として、自社経営として、同友会運動として、それぞれの視点で全国の同友会会員の皆さんをお迎えして議論していきたいと思っています。

会社経営で言えば、売上、利益、会社規模などの高みを目指すには、同時に人間性や哲学や歴史を深掘りしていく必要があります。2025年より会社も社員も、何より自分たちが成長した姿で2026年、日本一高い富士山と、日本一深い駿河湾のある町、静岡で全国の皆さんをお迎えしましょう。（実行委員長のPRより）



懇親会にて次回静岡開催の中同協定時総会をPR



実行委員長の梶川氏と宇佐美氏

御殿場支部設立40周年記念式典・講演・祝賀会 鈴木康友静岡県知事が記念講演 会員・来賓130名が一堂に会する 7月9日(水) 御殿場高原ホテル



講師を務めた鈴木康友静岡県知事

御殿場支部設立40周年を記念し、式典・講演・祝賀会が開催されました。当日は支部会員、他支部会員、来賓に加え、支部草創期を支えた歴代会員も参加し総勢130名が集まりました。

はじめに、大川隆久御殿場支部長より「本日は多くの皆さまにご参加いただき感謝申し上げます。静岡同友会設立から11年後に御殿場支部が設立されました。多くの先輩方が築きあげ、会員だけでなく行政や教育機関との連携も深めながら御殿場支部

は発展してきました。同友会には学びの場が多くあります。御殿場地域の枠を超え、学びと交流を積極的に進めていきましよう」とあいさつ。続いて、田山直喜実行委員長から「皆さんと共に40周年を迎えることができたことを誇りに思います。初代支部長の田中武夫さんからはじまり、悩めるときに近くに来てくれたのは同友会の仲間でした。これまで先輩の背中を追いかけていた我々ですが、これからは若い会員が追いかけてくる責任を実感し、活動を進めて



直近10年間の歴代支部長に感謝状を渡す大川支部長

いきましよう」とあいさつがありました。その後、ご来賓の皆様より同友会御殿場支部への期待を込めたあいさつをいただきました。

続いて鈴木康友静岡県知事の記念講演を開催。「静岡県政の未来」と題して、静岡県として取り組んでいる中小企業支援や二地域居住政策を活用した人口減少対策、観光の地域産業化などを紹介いただきました。祝賀会では、長きに亘り御殿場支部を支えてきた会員を代表し外山恵市氏（㈱アイ設備）が、会員に向けたメッセージを送りました。続いて、塩川佳司副支部長から決意表明。また、大川支部長より30周年から40周年にかけて支部長を務めた4名の会員に感謝状と記念品を贈呈しました。御殿場支部、御殿場地域の未来を共に語り合う時間となり、閉会しました。



40周年を迎えた御殿場支部

にじいる共生委員会主催
東部地区関係機関との交流・意見交換会
障がい者と企業のマッチングを進めるために何ができるか
7月18日(金) フラサウェルデ 401大会議室

にじいる共生委員会では東部・中部・西部と県内3か所で開催との意見交換会を開催しています。7月は沼津市にて東部関係機関との意見交換会を開催。沼津支部福祉委員会と合同にて行い、会員・特別支援学校教諭・障がい者就労支援機関など合わせて40名が参加しました。

開会にあたり、にじいる共生委員会の中村俊哉委員長から「歴代委員長からバトンを受け継ぎ、意見交換会も10年以上続けることができました。未来へ向けた意見交換を関係機関の皆さんとできるこの場をとても大事に思っています。人材確保がうまくいかない中、障がい者雇用の実情を知り、よいマッチングに繋がる場になればと思います」と挨拶がありました。

当日は企業側と関係機関側の障がい者雇用に関わる現状や取り組みを報告頂きました。はじめに前原毅氏（ダイヤプラス（株）・県副代表理事／御殿場支部）から「同友会は経営の学びだけでなく、地域社会の問題に取り組み実践の場として活用していくことが大切。中小企業が連携し、障がい者を支える仕組みを構築していくことができれば」と中小企業の存在意義と同友会で連携し、地域を支えることの大切さを語りました。続いて、渡辺潔氏（認定NPO法人 オールしずおかバストコミュニティ）から障がい者雇用の実情と障がい者雇用に向けた支援についてご紹介いただきました。グループ討論では、「障がい者雇用の定着はどのように支援することで進むか」「障がいについて知っていくために1人1人が関わりの持つことが大事」と共有されました。次回、西部意見交換会を10月に開催予定です。皆さんのご参加お待ちしております！

8月・9月

DOYU CALENDAR

8月16日(土)～9月15日(月)

8月 18日(月)	にじいろ共生委員会 (18:30 同友会事務局&ZOOM)
19日(火)	静岡県経済産業部との意見交換会 (15:00 同友会事務局)
20日(水)	御殿場納涼例会 (18:30 Fujiyama Come Come Town)
21日(木)	榛南例会 (19:00 榛原文化センター) 富士例会 (19:00 富士市交流センター) 伊東納涼例会 (18:00 NANKURU)
22日(金)	第22期経営指針を創る会⑤ (19:00 ペガサート) 中遠納涼例会 (19:00 割烹・食事処 辻菊)
25日(月)	第7回全県経営フォーラム実行委員会 (18:00 ZOOM)
26日(火)	県広報情報化委員会 (19:00 ZOOM) 県組織増強委員会・例会企画委員会合同開催 (18:30 同友会事務局&ZOOM)
27日(水)	志太例会 (18:30 藤枝市武道館)
28日(木)	県理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM)
28日(木) ～29日(金)	第9回経営労働問題全国交流会in茨城 (13:00 水戸プラザホテル)

9月 2日(火)	県青年部連絡会 (19:00 同友会事務局&ZOOM)
4日(木) ～5日(金)	第28回女性経営者全国交流会in東京 (13:00 京王プラザホテル)
6日(土) ～7日(日)	第22期経営指針を創る会⑥ (9:00 エスプラット フジスパーク)
7日(日)	富士支部同友会祭り (9:45 ふじのくに田子の浦みなと公園)
8日(月)	総務財務委員会 (16:00 同友会事務局&ZOOM) 伊東例会 (19:00 伊東市健康福祉センター)
9日(火)	静岡例会 (19:00 ペガサート)
10日(水)	沼津例会 (19:00 沼津商工会議所) 御殿場例会 (19:00 エピスクエア)
11日(木)	浜松例会 (19:00 サンレイ食品(株)) 正副代表理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM)
12日(金)	富士宮例会 (19:00 富士宮市総合福祉会館)

《 あなたのスケジュールノートに
必要事項をご記入ください 》



オリエンテーション西部開催

『同友会を使い倒そう！プロジェクト』 ～そうだ。そんな時、同友会があるじゃないか～

7月25日(金) 参加：24名(会場・ZOOM) 会場：ワークピア磐田

全会員を対象に、同友会をさらに深く知り、会社の発展に繋げる機会として企画したオリエンテーション。2025年度は全3回、東部・中部・西部開催を予定しており、第1回目を西部地域で開催しました。

冒頭、江間組織増強委員長より「同友会をより深く知ってもらい、会社の発展のために同友会を活用してもらいたい」と挨拶しました。

続いて飯田圭悟氏（㈱マテリアルK・榛南支部）より「同友会と私」をテーマに報告。建設会社の長男として生まれた飯田氏は、高校卒業後に他社で5年間修業し、家業へ入社。そのタイミングで経営者の経験を積めるようにと、父が子会社としてマテリアルKを創業しました。しかし2019年、父の会社が倒産。子どもの頃から父の会社に、また父の息子であることに誇りを感じていた飯田氏は、残っていた子会社で再出発することを決めました。その後、父の勧めで同友会に入会しましたが、当初は大社長がいるという印象があり、活動に参加していませんでした。そんな中、古川徹氏（㈱フルカワ・現榛南支部長）から忘年例会へのお誘いの連絡があり、その時をきっかけに同友会の良さを感じ参加し始めました。入会して良かったことは「①信頼できる仲間に出会える②仕事への向きあい方を学べる③自分だけではなくと安心できる場所ができた④人前で話すことが苦ではなくなった⑤異業種だからこそその気づきがある⑥人脈が広がった」とまとめ「同友会をぜひ活用してください」と参加者に伝えました。

グループ討論では「同友会のよさは先輩後輩関係なく話ができる」「会社として、経営者としての成長を求めている人が多い」「経営者として指摘してもらえる貴重な場」などの意見があり、同友会の活用について意見を交わしました。次回は静岡市で開催予定です。多くの方のご参加をお待ちしています！



飯田氏